

令和2年度

牛田・川除地区発掘ニュース

5月号

通算23号

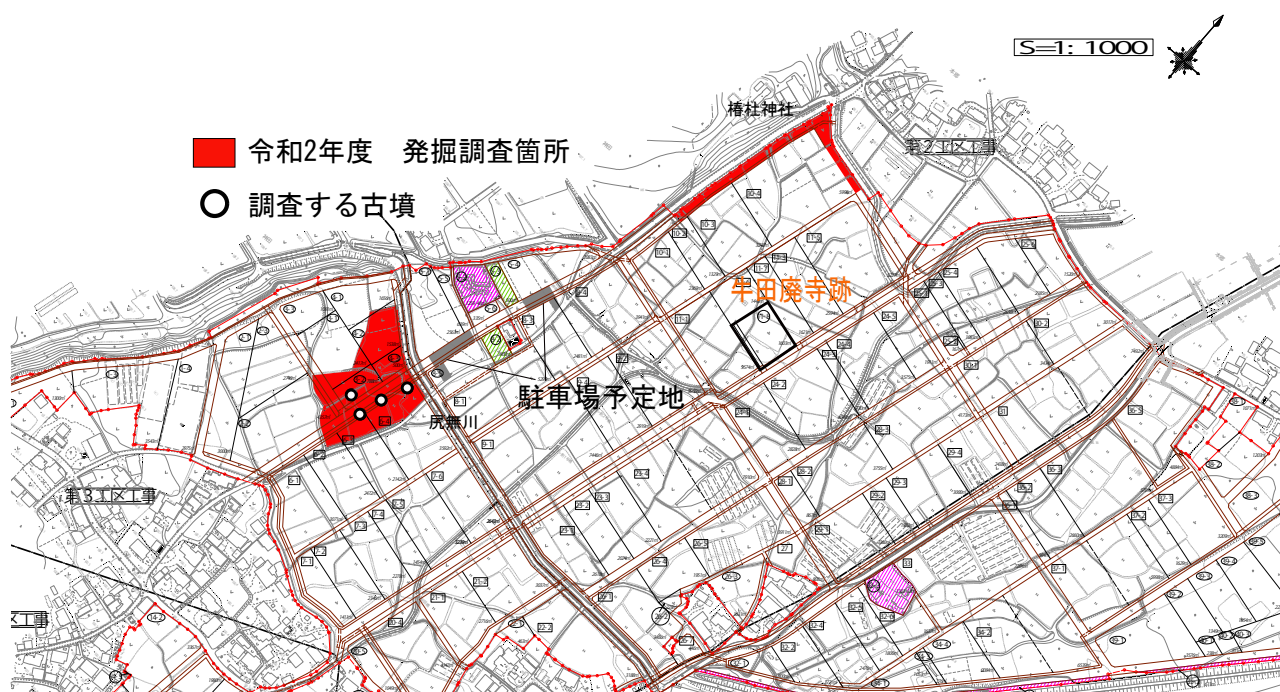
発掘調査開始のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も県営牛田・川除地区基盤整備事業に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を6月上旬から開始していく予定です。

今年度は下記の地図の場所で発掘調査を行う予定です。調査前に古墳部分の除草や、表土掘削のための重機が5月下旬から現地に入る見込みです。大変お騒がせしますが、ご理解ご協力のほどをよろしくお願い致します。なお新型コロナウイルスに係る影響で、調査の開始等が延びる可能性があります。ご了承ください。

発掘調査の成果や地域の歴史を、皆様に紹介するため「牛田・川除地区発掘ニュース」を今年度も発行していきます。

今年1年、またよろしくお願いします。



令和2年度の発掘調査範囲図

(赤色箇所の調査を実施します。5月中旬から作業を行います。)

藤岡市の古墳群の広がり と立地

令和2年度の発掘調査では、牛田地区にある小規模な古墳群の調査を行います。群馬県は日本の中でも古墳が数多く作られた古墳大国です。最新の調査では、失われてしまった古墳を含めて13,249基の古墳が県内に作られ、藤岡市にはその内の約11%にあたる1,511基もの古墳が存在していたことがわかっています。

市内には数多くの古墳がありますが、特定の箇所に集中しており、このまとまりを「古墳群^{こふんぐん}」と言います。また藤岡市内でも地区によって偏りがあり、浄法寺・鬼石地区といった山間部近くには古墳は7基しかなく、ほとんどが藤岡市北部の平野部に分布しています。

平野部でも、現在の市街地がある一帯には分布していません。古墳の分布が最も濃いのは、神流川・鮎川^{かんだんきゅう}といった河川に沿って発達した河岸段丘^{だいち}と呼ばれる台地の縁^{へり}です。藤岡市は河川に囲まれているため、古墳群を上から見ると市街地を取り囲むように環状^{かんじょう}に分布しています。

多くの古墳は河岸段丘上の一段高い場所にあります。牛田地区の古墳は段丘下の低地にあり、かなり変わった場所に作られている古墳群です。

さらに古墳時代終末期^{こふんじだいしゅうまつき}と呼ばれる古墳時代の終わりに作られた古墳である可能性が高く、牛田廃寺跡^{うしたはいじあと}との関係性が注目されます。



藤岡市の古墳群の広がり

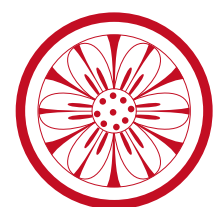
牛田川除地区発掘ニュース5月号 通算23号

令和2年5月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤

藤岡市白石1291-1(藤岡歴史館内) TEL:0274-23-5997



発掘調査のお知らせ

今年度は牛田地区に所在する古墳の調査を実施します。まず最初に現在の正確な地形の状況を確認するため、5月14日から古墳周辺の草刈りを行いました。『藤岡市遺跡分布図 2009 版』には、この地点には4基の古墳があると記録されています。古墳周辺の草を刈り、清掃したところ実際に4基の古墳があることが確認できました。いずれも直径10m程度の小型の円墳のようです。

発掘調査を開始すると、現況の地形等の情報が失われてしまいます。そのため清掃した状態でドローンを使い、空中写真撮影を行った後に、発掘調査を行っていく予定です。

調査は6月8日から開始します。



清掃後の古墳の状況（東から撮影）



令和2年度の発掘調査範囲図

古墳のかたちと意味

円形と四角形が組み合わさった「前方後円墳」や丸いかたちの「円墳」、四角形の「方墳」など、古墳には様々な種類が存在しています。当時の人々にとって、古墳の形や大きさは、葬られた人の身分や関係を表す重要な目印となっていたようです。

前方後円墳は、日本で一番大きな古墳である大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）（525m）など、高い地位にいた人物の古墳に採用されていました。藤岡市では、白石稲荷山古墳（155m）や七興山古墳（150m）が最も大きい前方後円墳です。

一方で円墳や方墳は、それよりも身分の低かった人々が葬られた古墳と言われています。古墳時代後期（6世紀）や終末期（7世紀）と呼ばれる時期になると、直径20m以下の小型の円墳が沢山作られるようになっていきます。牛田に残る小さな円墳も、この古墳時代終末期につくられたものと考えられます。

牛田からほど近い本郷や神田には、古墳時代後期の大規模な古墳群があります。今回の発掘調査によって、美九里地区の古墳時代の様子をより詳細に知ることができそうです。



古墳の様々なかたち



藤岡市 七興山古墳の空中写真

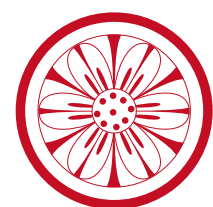
牛田川除地区発掘ニュース6月号 通算24号

令和2年6月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤

藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内）TEL:0274-23-5997



発掘調査を開始しました。

予定通り6月8日から今年度の発掘調査を開始しました。今年度の調査箇所は、下図の2箇所になります。

南側の古墳がある調査区では、古墳とその周辺の清掃を行いました。調査では古墳やその周りを掘削するので、現在の地形の情報が失われてしまいます。現況でどのような地形であったのかを記録するため、ドローンを使い全体を撮影しました（写真2）。

その後、古墳の内容や正確な大きさ等を確認するため、古墳の周囲にトレンチと呼ぶ細長い調査区を設定し試掘を行ないました。

新たにわかった牛田古墳群の特徴

試掘の結果、いくつかの新しい事実がわかりました。1点目は現在見えているより古墳はもっと大きかったということです。試掘トレンチでは古墳の1mほど外側に石列が見つかり、これが本来の古墳の端であったと思われます（写真1）。現況では8～9m程度の大きさですが、実際は11m程の古墳であったようです。

2点目は、埴輪が出土しないことです。群馬県の古墳は大量の埴

輪を古墳の周りに樹立させるのが大きな特徴ですが、古墳時代の終末期になると埴輪を樹立させることが無くなります。この古墳から埴輪が出土していないことから、牛田古墳群は7世紀以降に作られた古墳であると考えられます。7世紀は仏教が日本に伝来し、多くの寺院が作られ始める時期です。牛田古墳群は、日本の国の仕組みが大きく変わりはじめた時期に作られた古墳群と言えるでしょう。



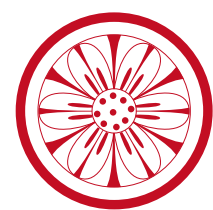
写真1 試掘トレンチから見つかった古墳の石積み（K-3号古墳）



写真2 牛田古墳群の空撮写真（南から撮影）



令和2年度の発掘調査範囲図



今月のニュース

発掘調査が始まり早くも2ヶ月が経ちました。

発掘調査は現在、椿杜神社東側の区画（11区）から調査を開始しています。段丘のすぐ下で湧き水が激しい箇所ですが、奈良時代の住居跡や倉庫と思われる掘立柱建物の柱穴が見つっています。ほったてばしらたてもちゅうけつ水が湧くような環境で人が住めたとは思えませんが、当時は現在と違った環境だったと思われます。

南側の古墳がある調査区（12区）では、7月中旬から重機による表土掘削を開始しました。これまで古墳は4基が確認されていましたが、削平された古墳が新たに1基見つかり、5基あることがわかりました。

11区の調査が終わり次第、古墳の調査に着手します。



牛田古墳群の空撮写真（南から撮影）



令和2年度の発掘調査範囲図

千年前の木材が見つかりました。

現在、発掘調査を進めている椿杜神社東側の調査区（11区）では調査区壁からの湧き水が激しく、梅雨の長雨とあわせて調査を進めるうえで最大の悩みの種となっています。しかし、こうした水分が非常に多い環境は、思いがけない恩恵をもたらしてくれることもあるのです。

調査を行った552号土坑の中から、30cm程度の木材が直立した状態で出土しました。通常の遺跡では、分解されてしまが残らないため、遺跡から出土する事例は多くありません。水によって木材がパックされることで酸素がなくバクテリアが繁殖できない環境であったため、残った遺物であるといえます。

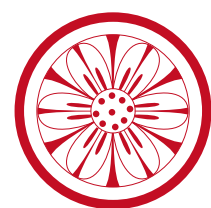
木材は取り上げて藤岡歴史館で保存しています。現在のところ加工痕など人が手を加えた痕跡は確認できていませんが、今後詳しく分析することで木材の種類や年代など、色々なことが分かるかもしれません。



11区の作業風景



土坑内から見つかった古代の木材



令和2年度

牛田・川除地区発掘ニュース

9月号

通算27号

今月のニュース

梅雨の長雨が終わり、ようやく夏らしい天候になってきました。連日の猛暑で悩みの種だった湧き水が少なくなり、順調に調査が進みました。

6月から行なっていた椿杜神社東側（11区）の調査が予定通り8月一杯で完了しました。
たてあなじゅうきよあと
竪穴住居跡18軒、土坑164基が検出され、牛田廃寺跡西側にも集落が存在していたことが明らかとなりました。



11区の空撮写真（南から撮影）

調査が予定通り完了したため、11区周辺ではまもなくほ場整備の工事が始まるようです。9月からは12区の古墳の調査に本格的に着手します。

古代の集落と

牛田廃寺跡

かわよけやしきうらいせき

今年度で川除屋敷裏遺跡（註1）の発掘調査は3カ年目になりますが、令和2年8月ま



令和2年度の発掘調査範囲図

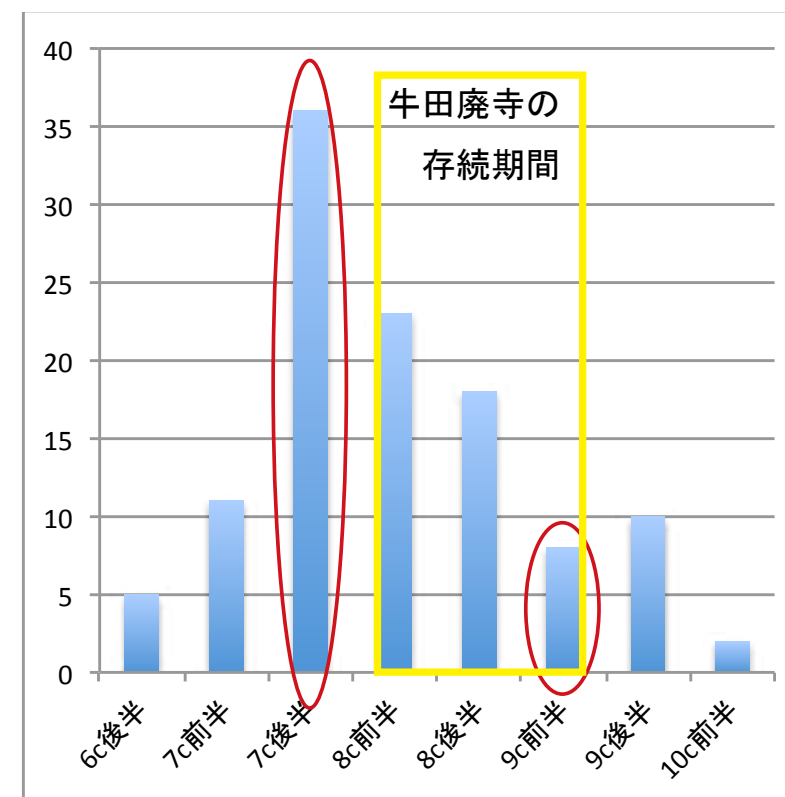
註1：発掘調査では、「牛田廃寺跡」や「牛田古墳群」、沢山の竪穴住居跡等が確認されていますが、遺跡全体の総称は「川除屋敷裏遺跡」といいます。

で昔の人々の住まいである竪穴住居跡が204軒も見つかっています。発掘調査は工事によって遺跡が壊される箇所を対象としているため、牛田川除地区のごく一部分しか発掘していません。牛田川除地区全体を発掘すれば、この何十倍もの竪穴住居跡が見つかるはずです。

見つかった204軒は1時期に造られたものではなく、6～10世紀にかけて造られたことがわかってきました。400年間、連綿と集落が営まれていたようですが、住居を時期別に分けると時期によって住居数に大きな違いがあることがわかりました（表1）。表1を見ると7世紀後半に住居がいきなり激増し、9世紀前半に減少しています。この時期は牛田廃寺跡の創建（8世紀前半）と廃絶（9世紀前半）の年代と一致します。つまり、牛田廃寺跡を造るため創建の前段階である7世紀後半に多数の人々が牛田川除の地に移住し、大きな集落を形成したのでしょう。

寺院周辺には、造成・寺院建築の技術者や僧・尼、寺の管理に関わる人々など、多様な職種の人々が生活していたはずです。これから発掘調査で見つかった遺構等を1つ1つ調べていくことで当時の集落景観を復元できるかもしれません。

表1 川除屋敷裏遺跡から見つかったの竪穴住居跡の時期別表



※時期が判別できる住居跡のみを集計しているため、発見された住居軒数とは一致しません。

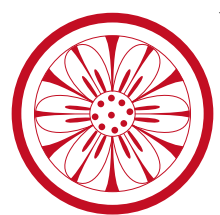
牛田川除地区発掘ニュース9月号 通算27号

令和2年9月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）TEL:0274-23-5997



令和2年度

牛田・川除地区発掘ニュース

10月号

通算28号

今月のニュース

真夏の猛暑がようやく和らぎ、発掘調査がしやすい季節になってきました。8月下旬から古墳の調査に着手していますが、調査が進み、古墳の内容が徐々にわかってきました。

現在、1・2・4号古墳の調査を行っていますが、もっとも調査が進んでいるのが2号古墳です。

2号古墳は、牛田古墳群の北東に位置し、直径11m程度の円墳です。天井石は石室内に落ちていましたが、当初の予想より石室の状態は良く、美しい模様積み石室であることがわかりました。模様積みとは、加工していない河川礫を使い、飛び石状に大きな石を配列し、その間に小さな石を積んで構築する



牛田古墳群空撮写真（南から撮影）



2号古墳の模様積み石室



2号古墳 模様積み拡大写真（左：左側壁 右：奥壁）

石室です。大きさが異なる石を巧みに使い、均整が取れた壁面を作り上げています。模様積みは藤岡市や神流川対岸の上里町・神川町で特徴的な石室で、日本でこの一帯の地域でしか見られません。2号古墳の墳丘は壊されていて残りが悪いですが、藤岡市上落合の伊勢塚古墳では、模様積み石室に入って自由に見学できます。完全な形の模様積み石室をご覧いただけますので、是非足をお運びください。

2号古墳は盗掘を受けていましたが、石室外から副葬品の一部が見つかっています。古墳墳頂からは鉄製直刀が2振り、石室入り口付近からは、銀メッキされた耳環（耳飾り）が見つかりました。本来は石室の中で見つかるべきものです。盗掘の際、何らかの理由で古墳の外に捨てられてしまったのでしょう。石室の中は盗掘されていますが、細かい副葬品は残されていることがあるため、今後は石室の土をふるいにかけていく予定です。



2号古墳から見つかった直刀（左）と耳環（右）

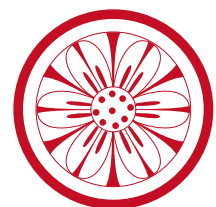
牛田川除地区発掘ニュース10月号 通算28号

令和2年10月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）TEL:0274-23-5997



令和2年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

11月号

通算29号

今月のニュース～牛田廃寺跡 藤岡市指定史跡に指定～

平成30年度に発見され、地元地域の方々のご理解とご協力により現状保存されることとなった「牛田廃寺跡」が、藤岡市指定史跡に指定されました。9月28日の藤岡市文化財保護審議会で「牛田廃寺跡」を市指定史跡にする旨が具申され、10月20日藤岡市教育委員会定例会に議案が上程され、可決しました。

史跡とは、歴史上または学術上価値の高い遺跡のことです（文化財保護法第2条第4項）。「牛田廃寺跡」に高い価値が認められたということです。将来的には「牛田廃寺跡」の保存・整備また研究を進め、地域の歴史や価値がより明らかになるよう進んでいきたいと思ひます。



文化財保護審議会の様子

指定理由（文化財保護審議会意見書より抜粋）

牛田廃寺跡は、奈良時代初頭の古代寺院跡である。3棟の建物跡が発見されたが、金堂と考えられる建物は掘り込み地業を伴う瓦積基壇が検出され、基壇外周から大量の瓦が出土している。寺院の創建は8世紀前半、廃絶は9世紀前半と推測され、およそ1世紀の間、法灯を守っていた寺院であったと思われる。

また、道忠によって建てられ、最澄の東国伝道の拠点となった、浄土院浄法寺（緑野教寺）と至近距離に存在し、何らかの関係性がある可能性が非常に高い。この寺院跡は、これまで不明確であった藤岡市における古墳時代以後の様相を知る上で非常に重要な遺跡である。

古墳の調査を開始し、牛田古墳群の様相がわかってくるにしたがって、県内外から多数の研究者が見学に訪れています。

群馬県古墳研究をリードする群馬県立歴史博物館 右島和夫特別館長が来跡され、熱心に調査中の古墳を見学されました。他に早稲田大学 城倉正祥教授と大学院生が石室の測量に訪れています。城倉教授は以前、七興山古墳や白石稻荷山古墳のレーダー測量を実施しています。



1号古墳を見学する右島特別館長

市内からは藤岡工業高校の先生と生徒の皆さんも自転車で見学に訪れ、古墳の説明を熱心に聞いていました。10月は多くの方々が現場に見学に訪れました。

牛田廃寺跡から出土した瓦の調査に国土舘大学 眞保昌弘准教授が藤岡歴史舘に来舘されました。眞保准教授は東日本の古代瓦研究の第一人者で、牛田廃寺跡の瓦に非常に注目されていました。



古墳の説明を聞く藤岡工業高校の生徒達



牛田廃寺出土瓦を見学する眞保准教授

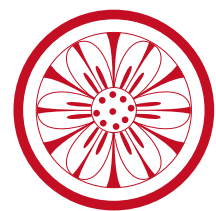
牛田川除地区発掘ニュース 11月号 通算29号

令和2年11月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史舘内）TEL:0274-23-5997



令和2年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

12月号

通算 30号

今月のニュース - 遺跡現地説明会開催 -

10月25日と11月8日に牛田古墳群の現地説明会を実施しました。初回は地元地域向けで42名、2回目が一般向けで65名の方に参加いただきました。2回目は事前予約制でしたが、遠方からの申し込みが多数あり、藤岡市内の古墳に対する関心の高さが伺えました。



現地説明会の様子

- 牛田古墳群の空中写真撮影を行いました -

墳丘の検出がほぼ完了したため、古墳を解体する前に牛田古墳群全体の空中写真撮影を11月10日に行いました。古墳は壊されていますが、土に埋もれる前の葺石で周囲が飾られた古墳



牛田古墳群遠景 調査後（南から撮影）



牛田古墳群遠景 調査前（南から撮影）

時代当時の古墳の姿を見ることができます。

空撮の写真を見ると1号古墳が一際大きいことがはっきりとわかります。2～4号古墳より上位の人物の墓だったのでしょうか。



1号古墳（円墳） 直径約17m



2号古墳（円墳） 直径約11m



3号古墳（円墳） 直径約12m

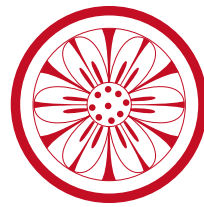


4号古墳（円墳？） 直径不明



牛田古墳群 垂直写真

牛田川除地区発掘ニュース 12月号 通算 30号
令和2年12月1日発行
発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係
担当：文挾・齋藤
藤岡市白石 1291-1（藤岡歴史館内）TEL:0274-23-5997



令和2年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

1月号

通算31号

今月のニュース

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願い致します。

12月1日から牛田古墳群南側の調査区（13区）の調査に着手しました。古墳群のすぐそばですが、ここには古墳はなく、住居跡を中心とした集落が見つかっています。古墳群は、牛田・川除地区の極めて限られた箇所で作られたことが13区の調査ではっきりしました。

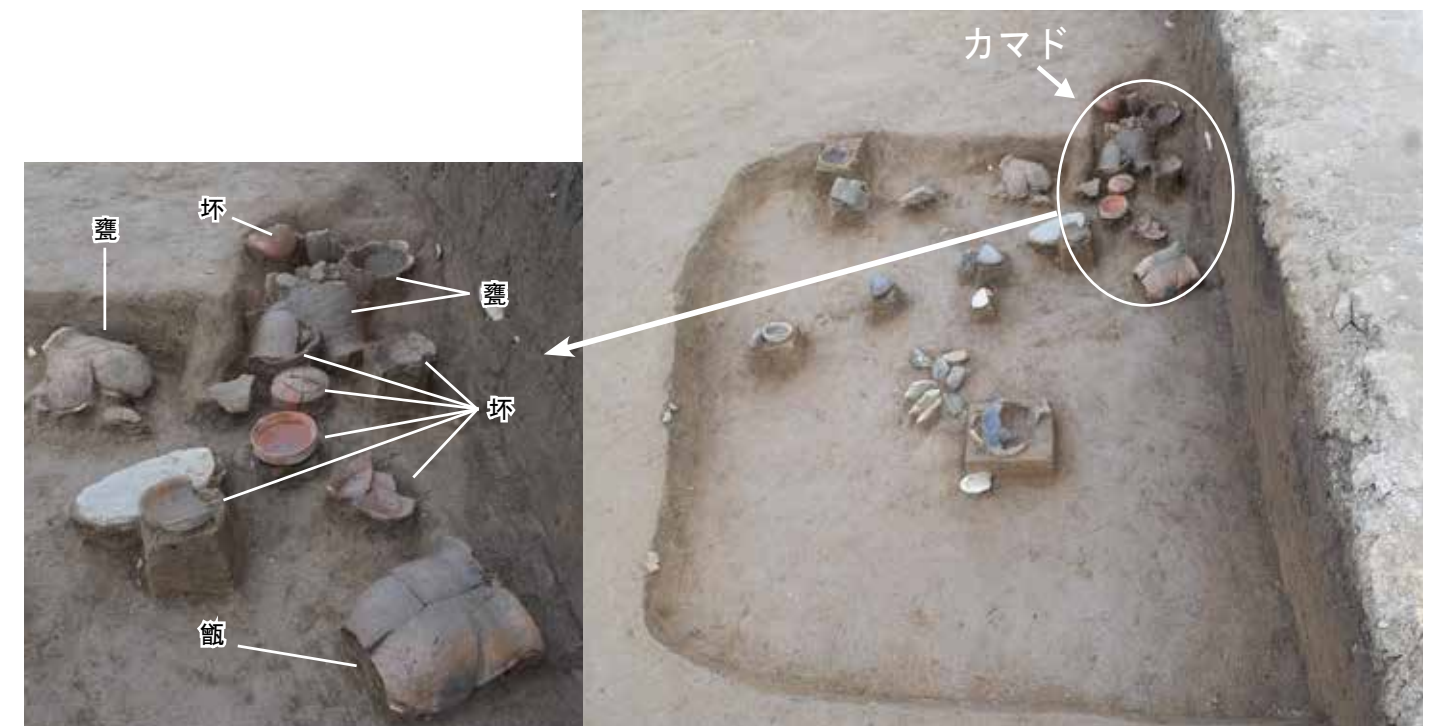
－古墳群の南から古代の集落発見－

13区では、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡十数軒と多数の土坑が検出されました。住居跡は調査区の中央付近、土坑は北側につくられており、それぞれの分布に偏りがあることが分かってきています。



令和2年度の発掘調査箇所

13区で確認できた住居のなかで最も南に位置する207号住居跡には、カマド周辺を中心に土器が13点残されていました。この土器を詳しく見てみると、調理具である胴長の甕（煮炊き用の土器）と甗（蒸し器）がそれぞれ1点、貯蔵に使う丸胴の甕3点、盛り付け用の器である坏7点で、すべて日用品であったことが分かります。日用品の土器は通常壊れるまで使うため、完形のまま残されていることはあまりなく、なんらかの理由で土器を持ち出さないまま住人が移動し、住居が埋まってしまったと考えられます。ほとんどの土器が台所であるカマドのそばで出土しているようすからは、この住居で生活していた人々の姿が思い起こされます。



カマド周辺の大量の土器

207号住居跡 遺物検出の状況

牛田川除地区発掘ニュース1月号 通算31号

令和3年1月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：齋藤・文挾

藤岡市白石1291-1（藤岡歴史館内）TEL:0274-23-5997



令和2年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

2月号

通算 32号

今月のニュース 一新たに7号古墳を発見ー

11月下旬にこれまで全く把握されていなかった7号古墳が発見されました。土の中に埋没しており、地表面からは古墳とは全くわかりません。他の古墳と同様に模様積み石室を持つ古墳で、遺存状態は極めて良好でした。この古墳も盗掘されていましたが、石室内からガラス小玉などの副葬品が見つかりました。



7号古墳 空撮



7号古墳 模様積み石室

石室内から小さな副葬品が見つかりました

調査も終盤となり、古墳の解体を開始しています。残念ながら全ての古墳が盗掘をうけていましたが、盗掘者が気づかないような小さな遺物は石室の中に残っていることが多いです。そのような遺物は普通に発掘していると見逃してしまうことが多く、見つけるためには石室の中の土をふるいに掛ける必要があります。

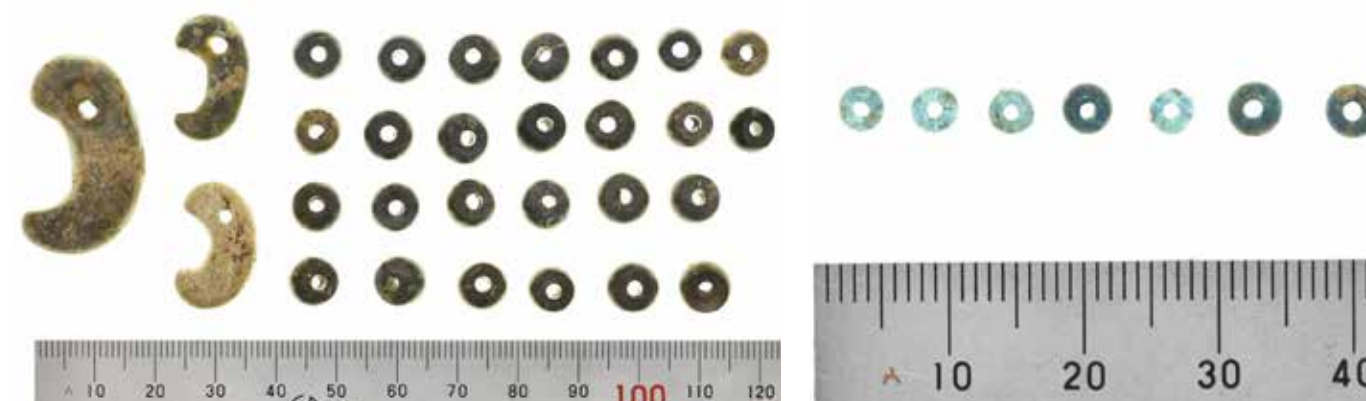
ふるい掛けでは、2号古墳から石製の勾玉と丸玉が発見されました。蛇紋岩と滑石という石で作られており、表面は丁寧に磨かれ美しく仕上げられています。蛇紋岩と滑石は、藤岡市内で採掘できる



ふるい掛けの作業風景

石材です。

7号古墳からは、直径3mm程のガラス小玉が見つかりました。



2号古墳出土の石製勾玉と丸玉

7号古墳出土のガラス小玉

日本ではガラスは弥生時代から出土し始めますが、数多く作られるのは古墳時代後期からです。ガラスは鉄・銅・コバルトなどを混ぜることで着色し、水色の他に濃紺・黄・緑などが見つかることがあります。7号古墳のものは綺麗な水色でした。本庄市薬師堂東遺跡からはガラス小玉を作るための鋳型が出土しており、近隣で作られ古墳に副葬されていました。

玉類は、埋葬された人物の装飾品ですが、古墳から出土する人物埴輪に玉類が表現されており、現代と同じように首飾りや腕輪に用いられていたことがわかります。



本庄市薬師堂東遺跡出土のガラス小玉鋳型



人物埴輪に表現された装飾品

(藤岡市神田・三本木古墳群六反支群 10号古墳出土)

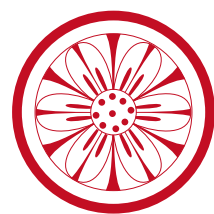
牛田川除地区発掘ニュース1月号 通算 32号

令和3年2月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤

藤岡市白石 1291-1 (藤岡歴史館内) TEL:0274-23-5997



令和2年度

回 覧

牛田・川除地区発掘ニュース

令和2年度最終号（3月号） 通算33号

今月のニュース

3月中旬で令和2年度の発掘調査は終了となります。今年度は住居跡などの集落の他に、古墳時代終末期の古墳の調査を行い、少なくとも7基の古墳が存在していることが新たにわかりました、今まで知られていなかった藤岡市の歴史が明らかになり、大きな成果が得られています。

令和3年度で牛田川除地区の現地での埋蔵文化財発掘調査は終了で、5月頃から調査を再開する予定です。

引き続きご理解ご協力のほどよろしくお願い致します。

古墳周溝に馬が埋葬

古墳の墳丘周囲には「周溝」と呼ばれる溝が掘られており、周溝を掘った土で古墳を盛土するのが普通で、牛田古墳群でも同様です。周溝の内からは古墳から崩れてきた石や須恵器などの遺物が出土していますが、これとは別に馬が多数埋葬されているのがわかりました。



古墳時代の馬（復元）
（千葉県木更津市郷土博物館）



周溝から見つかった馬埋葬土坑



埋葬された馬



検出された馬の上下顎骨

日本は火山が多く、土壌が酸性であるため、骨などの有機物は時間とともに溶けてしまいます。今回見つかった馬骨も、エナメル質に覆われた頑丈な歯以外は極めて脆くほとんど分解してしまい、骨はかろうじて輪郭がわかる程度でした。

日本での馬の出現は4世紀後半で、体高100cm程度の小形馬が中心です。馬が普及する古墳時代後期の古墳では、華麗な馬具が副葬品として納められることが多く、権力者にとって馬は非常に価値ある存在であったことを示しています。

牛田古墳群では周溝の底に穴（土坑）を掘って、馬が埋葬されていました。埋葬された正確な時期については不明ですが、周溝内に堆積していたAs-B軽石（1108年浅間山噴火により降下）より下層から見つかっているため、10世紀から古墳の作られる7世紀の間に埋葬されたと考えられます。豪族の墓である古墳が、馬の墓としても利用されていたことが今回の調査でわかりました。

古墳という特別な場所にわざわざ埋葬したのも、当時の人々にとって馬が特別な動物だったことの

あらわ現れと言えます。

牛田川除地区発掘ニュース

令和2年度最終号（3月号） 通算33号

令和3年3月1日発行

発行：藤岡市教育委員会 文化財保護課 埋蔵文化財係

担当：文挾・齋藤